

平成30年度第2回北区民まちづくり会議 摘録

1 日 時 平成31年3月7日（木）午後6時30分～午後8時

2 会 場 北区役所 大会議室

3 出席者 委員14名／25名

4 次 第

(1) 報 告

- ・ 「北区民つながるプログラム」の進ちよく状況
- ・ 学習会の開催結果

(2) 議 題

- ・ 次期北区基本計画に係る基本事項
- ・ 議論の進め方
- ・ 要綱改正

5 摘 録

○事務局

ただ今から、平成30年度第2回北区民まちづくり会議を開会する。
開会にあたり、松本北区長から一言挨拶を申し上げる。

○区 長

本日はお忙しい中、北区民まちづくり会議にご出席いただき誠にありがとうございます。
また、平素から京都市政並びに北区政にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

今年度の北区民まちづくり会議では、志藤先生をはじめとする学識の先生方に講師をお引き受けいただき、北区のまちづくりについて、4つの違った観点からの考察を深めてきた。来年度からは、いよいよ次期北区基本計画の策定に取り掛かる。本日は、次期北区基本計画についての基本的な考え方や進め方のイメージを共有させていただこうと考えている。

現行の北区基本計画は、平成23年、ちょうど東日本大震災が発生したときからスタートし、ちょうど8年が経過したところ。次期北区基本計画は、平成31年度、32年度に議論し、平成33年度からのスタートとする予定。

現行の北区基本計画策定以降、私たちの暮らしを取り巻く環境は大きく変化している。こうした変化に柔軟に対応し、北区の未来につながる計画を策定していきたいと考えているので、
引き続き、皆様にご協力をお願いしたい。

○事務局

それでは本日の会議を進めてまいります。

来年度から「次期北区基本計画」策定に向けて、具体的な議論を進めていくこととしている。現在は、北区基本計画の後期5か年計画「北区民つながるプログラム」に基づき事業を展開している。その計画期間は平成32年度末までであるため、次期北区計画は平成33年度からのスタートとなる。

本日は、来年度以降の大まかな策定スケジュールや議論の進め方等を共有し、要綱改正も併せて行う予定である。

進行については、本会議の座長である志藤先生にお願いしたい。志藤先生、よろしくお願ひする。

○志藤座長

手元の次第に従い、議事を進行させていただく。

今回のテーマは、現行の「北区民つながるプログラム」の次期北区基本計画を策定するということ。現行のプログラムは、高奥会長をはじめ当時の委員がかなり頭をしばって会心の出来のものを作成したと記憶している。今後、さらに内容をレベルアップさせていくということなので、皆さまのお力添えがないとできないこと。これまで何を進めてきたかと、今後、どのような議論を展開していくかについて、ぜひ皆さまの忌憚ないご意見を頂戴したい。

それでは、報告「北区民つながるプログラム」の進捗状況等について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

〔 資料1 「北区民つながるプログラム」の進捗状況
資料2 学習会の開催結果 〕 により説明

○志藤座長

学習会講師をお引き受けいただいた先生方につきましては、ご苦労様でした。ここまでの事務局からの説明について、質問や意見などがあれば、自由に発言をお願いしたい。

(質問、意見なし)

それでは、せっかくなので、先生方からひと言ずつお願いしたい。

○河角先生

私の回では、冒頭でパブリックコメントに係る時間を要したため、ディスカッションを行う時間がなく、講義のみとなってしまったので、地域の皆さんにじっくりとご意見を伺うことができなかった。しかし、講義の中で紹介した写真が今も家にあるという委員からの発言があったことが一番印象として残っている。私にとって出来る限りのことをさせていただいた。皆様にとって少しでもお役に立てばと思っている。

○松岡先生

私は、災害をテーマに話をさせていただいた。普段できないことは災害時にもできない

とよく言われている。顔の見える関係を普段からどのように作り上げて、どうまちづくりに生かしていくかが大切だということについての話をさせていただいた。

○藤野先生

私からは、家族が一番小さな社会の形態で、その価値観が社会と密接につながっており、日本では少子化を生んでいるという話をさせていただいた。ディスカッションでは議論しにくいテーマだったかもしれないが、今後、グローバル化が進む中で、地域に住まう外国の人も増えていくことが予想される。事前にどのような家族のあり方があるかを知っておけば、お互いに理解しやすいのではと思う。

○志藤座長

私の回では、日ごろからよく言われている「まちづくり、人との繋がりは大切」ということがなぜ大切かについて話をさせていただいた。自分自身の健康やいざというときに互いに頼りにできるといった効果があることについて、調査に基づいたデータをもとに話をさせていただいた。

「北区民つながるプログラム」では、皆で議論した内容をつないで皆でまちづくりを進めていくという「Think 北区から Link 北区へ」の考え方で、北区基本計画に掲げる10の分野での取組を「自然」「まち」「地域コミュニティ」の大きく3つにまとめた。これまで区役所で進めてきた取組を着実に積み上げて、年々充実してきているが、このままではオーバーワークとなり「働き方改革」をせざるをえない。また、近年の地球温暖化など、我々の人智を超えることが起こっている。つながるプログラムには明記できていない内容もあるので、次回の計画にあたって大きな焦点となるのではないかと。

ここで、「北区民つながるプログラム」を作られた高奥会長から一言お願いしたい。

○高奥委員

「北区民つながるプログラム」を一緒に作らせてもらったときには、完璧なものできたと思った。しかし、今はどのような意見をまとめて作り上げていったのかはあまり記憶にない。地域コミュニティの部分については、いろいろな事例を参考にして各学区がもう少し力を入れ各々に見合ったビジョンを考えるべきかと思う。一つの意見として参考にしてもらいたい。

○志藤座長

ありがとうございます。次の事務局からの報告後でも結構ですので、他にご意見などあればお願いしたい。

では、続いて、次期北区基本計画策定に向けた議論に移っていきたい。議題1「次期北区基本計画に係る基本事項」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料3 次期北区基本計画に係る基本事項

資料4-1 議論の進め方

資料4-2 今後のスケジュール

参考資料1 現行の北区基本計画策定以降に生じた環境の変化について

により説明

○志藤座長

事務局から、次期北区基本計画策定に当たっての基本的な考え方と進め方、そして北区を取り巻く深刻な数値についての報告・説明があった。

なお、合計特殊出生率は、ご存じのとおり統計的に処理をしている数値である。京都市の場合は、大学生の未婚女性が多いと、合計特殊出生率が下がってしまうので、実際の出生数の推移を見る方が分かりやすい。また、町内会未加入問題については、これまで散々、議論を重ねてきたが、結果としては厳しい数値なのかという思いである。

○高奥委員

自治会・町内会加入率は、一軒家と学生マンションを分けると異なる数値が出てくるのではないか。私の学区では、一軒家はほぼ100%、学生マンションは0%である。そして、普通のマンションの加入も町内の対応にまかせているが100%か0%のどちらかである。PTAなどの役をしている人に声をかけて徐々に町内会に入ってもらっているが、学生マンションについては、日頃の挨拶はないし入り口で閉鎖されているので、どのような方が住んでいるかもわからず対応が難しい。最新の加入率は68.9%とのことだが、一軒家とマンションを分けて考えられないか。

○石田委員（柴垣委員代理）

先ほど、お話があったように、マンションを除く、普段、地域での付き合いを大切にしている人を分母とした加入率がどれだけかが抜けているように思う。我々が大切にしたい世帯数の加入率がどの数値か、実態の加入率はどれなのかを皆に理解してもらい、加入者を増やすための説明ができればと思う。目に見える、説得力のあるデータをいただきたい。

○滋野委員

皆さんのお話を聞きながら、前回策定した「つながるプログラム」で掲げる「Think 北区から Link 北区へ」の「つながり」だけではなかなか解決しにくい段階になってきている印象を持っている。前回の計画では、ビジョン、夢や希望などを描いていたが、次の計画ではどこまで突っ込んで書くのか。それによってパワーがある可能性もあるなと思い、心配しながら考えていた。先ほど、他の委員から、地域コミュニティについて、あまり取り組めなかったかもしれないという意見があった。実際に地域と繋がれたのかを振り返りつつ、「Think 北区から Link 北区へ」の次として、いよいよSDGsのような、明確な課題を解決していくような段階に来ているのではと感じた。

○平元委員

議論の進め方のところで、区民会議委員や地域企業等が参画するとあって、なるほどと思ったが、この北区民まちづくり会議のように、行政、教育機関、地域の役をされている目立った方ばかりでの議論になりがちではないか。おそらく計画の中心となるのは、会議に出てこない多くの区民である。特に働き盛りの人は、昼間は北区にいないで、夜帰ってくる人である。目立たない人に、自分の住んでいる町を誇りに思ってもらい、町に関わりたい、貢献したいという気持ちを持ってもらえるようなことを進めていく必要がある。私が少し考えていることは、教育は大切だということ。子どもは教育機関で教わるが、特に

働き世代の人に町の良さを知ってもらふ必要があると思う。この考えが、少しでも議論の進め方のところで参考になればと思う。

○志藤座長

私も同感である。いろいろな会議があると思うが、北区で市民参加がうまく成功すれば、全国でも数少ない事例となるのではないか。そのことだけを取り上げて計画を作ってもよいくらい、すごく重要な内容である。皆で色々と議論しても面白い。

○木村委員

私も、情報を扱う仕事をしている中で、発信している情報がどこまで町の人たちに伝わっているのかと純粋に疑問を持っていた。町内会に参加して、町の中心の人とよくつながっている人は情報を知る機会があると思うが、町内会を知るきっかけのない人には難しい。私は東京から京都に来たときに、幸い、町内会のあるエリアに住んだので、町内会にかかわることができた。しかし、一人で移住してマンションに住んでしまうと、町内会を知らないままできてしまう。よく町内会に入るように勧められるが、メリットは何かと思うだろう。また、若い人で、地域コミュニティに興味のある人は、どうしたら関わられるかが分かりづらい。京都は入りにくいというイメージもある。この会議で議論していることも、もっと公開していくべきだと思っている。働き盛りの人たちが後からでも知れるような仕組み、例えば、インターネットやSNSを活用して発信していければよいのではないか。

○向井委員

北区に50年以上住んでいながら、仕事に出て夜遅く帰ってきていたので、これまでまちづくりに関わったのはPTA活動をしていたときくらいかなと思う。4つの部会については、ばらばらに動きがちであり、これはどこの地域でもあることだと思う。すぐには無理でも、それぞれのテーマでもって1つのことができるような行動が取ればと思う。

以前、私は滋賀日野町の策定に関わっていた。その際は、地元市民が活発に参画しており、10グループくらいが4つのテーマ全部について議論するような方法を取っていた。全員が4つの課題を共有し、毎回アプローチするような方策を取っていたので、参考にしてもらえたらと思う。

○勝田委員

小学校PTAでも、皆にどうやって興味をもってもらうか、能動的に参加してもらうかがとても難しい。課題はたくさんあると思うが、次にどう皆がうまく参加していくかが難しいと思う。

○堺委員

各町内、各学区、色々な面で加入者が少なくなっていることを実感している。女性会においても年々高齢化し、新しい人が入ってくれない。どうすれば皆さんに入ってもらえるか、メリットをどう打ち出していけばよいかを考えるが、非常に難しい。魅力は自分が魅力と感じないと伝わらない。少しずつでも、隣近所から掘り起こして魅力ある女

性会にしていければ。隣近所での声掛けや挨拶は、日常忘れがちなことだが大事なことである。少しずつでも実現していきたいと思っている。熱心に議論・協議されている皆さんのおられる場で勉強できることを嬉しく思っている。

○松岡委員

中京区で活動をさせていただいている内容を少しご紹介する。30代などの若い世代をどう巻き込むかのヒントになればと思う。子育て支援に係る行政の取組では、なかなか多くの参加者が集まらないのではないかと思う。地域の子育て活動と佛教大学が共同して取り組んでいる「絵本の読み聞かせ」は、月1回のペースで3年間続けている。ゆるやかなもので、参加しても良いしなくても良い。母親同士はネット、ライン、ツイッターなどのSNSで繋がっているようである。しかし、年1回のイベントには、父親も含めて約100組の親子が参加する。

自治会、女性会などの繋がりではなく、ゆるくつながっている。恐らく20～40代は、自治会などのつながりは面倒だと思える世代。ゆるやかな繋がりの中で地域の活動にどう引っ張ってくるかが、一つのヒントになるのではないか。

○志藤座長

高奥委員、石田委員のご意見は、資料の提示の問題であったかと思う。統計は母数に何をとりかて内容が変わる。区役所で押さえている統計数値を議論に乗せるために加工、又は資料そのものの提示が必要ではということである。議論を進める大前提の内容なので、非常に重要だと思う。

また、資料3、資料4に関わる内容かと思うが、幅広い年齢層にどう関わってもらって、どう実現していくか。北区に住んでいるのは、約11万の区民だが、計画に関わっているのは少しの人間である。多様な立場のご意見、思いや願いをどう結び付けていくか。そして、いかに広報していくか。前回のつながるプログラムは、中学生や高校生など、いろいろな人にアプローチしたが、前回の方法以上のアプローチを考えていかないといけない。オープンな方法をどう確立するか。情報発信の方法などについて考えていく必要がある。

また、部会の持ち方、議論の方法についても意見が出た。SDGsのような課題解決型にするか、4つの部会で相互の関係性をイメージ化して進めるか。ゴールの問題についても意見が出ていた。議論の持っていく方も、もう少し詰めないといけない。前回の計画は、完璧に作れたのではと自負していたが、皆さんから出されたご意見をお聞きして、もっと考えていかななくてはならないと考えている。

○松岡委員

部会についてだが、例えば、防災対策は地域づくりそのもの。別々に議論しても、根底に地域コミュニティの課題があるので、同じところに行きつく。人口減少、空き家、自治会加入の話もそうである。別々で議論してうまくいくのであろうかと思った。

○志藤座長

防災、災害は様々な領域が関係してくる内容である。4つのテーマを貫く横串がいるということになるかと思うが、4つの部会をもとに、議論の仕方を少し工夫すると、貫く内容が何か見出せるかもしれない。スタートまでに少し時間があるので、もう少し議

論してはどうか。

○高奥委員

例えば、地域コミュニティと防災の部会を必要な時に一緒にするなど考えられる。

○志藤座長

進め方によっては、合同部会で一緒に議論するのもよいのではないか。テーマ合体型で切り口を変えて一緒に議論してもよい。

○河角先生

4つの部会については、恐らく書き方の問題でもあるのではないか。皆さんがおっしゃる通り、すべて相互に関わっている。例えば、文化（観光）は全く防災と関係がないように思われるかもしれないが、自然災害時の観光客の問題については議論が進んでいたりする。各部会の円をバラバラに描くのではなく、重なり合わせて書いてはどうか。

○志藤座長

書きぶりに関しては確かにそうである。具体的に議論で話し合いにもっていくかはもう少し議論が必要である。

○藤野委員

前回のプログラム策定時には、恐らくアンケート調査、聞き取り調査をされているかと思う。計画査定時は見えない方の声をすくい取るために調査するのが一般的。もし可能であればSNSで簡単にアンケートできるので実施してみてはどうか。少し手間はかかるかもしれないが。

○志藤座長

きちんと区民の声を聞いて、なるべく皆さんに知っていただきながら、次の計画を作っていきたい。前回のプログラムでは、区民に計画のことを知ってもらい、考えてもらって、そして参加してもらうことを重点に考えていた。今回の計画については、どこに重点を置くか。地域企業、大学生の参画など、新しい提案も出てきている。なるべく我々も努力して頑張っていかなければと思う。

いただいたご意見については、どう具体化していくかを早急に詰めて、再度、提案していければと思う。それでは、最後に議題3「要綱改正」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

〔 資料5-1 京都市北区民まちづくり会議開催要項（新旧対照表）
資料5-2 京都市北区民まちづくり会議開催要項（改正案） 〕により説明

○志藤座長

今の提案について何かご意見はあるか。すでに次期北区基本計画についての議論を進めていることもあるので、追認という形でご了承いただければと思う。

なお、SDGsについてあまり説明のないまま話を進めてしまっていたと思う。また別の

機会にでも資料を提示してほしい。それでは、マイクを事務局にお返しする。

○事務局

志藤先生，ありがとうございました。また，委員の皆様，積極的な議論をありがとうございました。次期北区基本計画の議論の進め方，発信の仕方などについては，事務局でとりまとめ，次回の会議でお諮りしたい。なお，3月18日には未来につながる区民会議を開催し，来年度は5月8日に北区民まちづくり会議を開催する方向で調整している。また，来年度の未来につながる区民会議は，5月13日（月）午前に予定している。改めてご案内するので，出席をお願いしたい。